

都内私立中学高等学校  
校 長  
関係教職員殿

一般財団法人東京私立中学高等学校協会  
会 長 近藤 彰郎  
東京私学教育研究所長 平方 邦行  
(共催：公益財団法人東京都私学財団)

## フュージョン教育研究会 ワークショップ プロンプト（生成 AI）の作り方を工夫して、 生徒が主体的に考える視点を見つける学び 入門編



向暑の候 貴校益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、新学習指導要領が実施されてから、学校では教科と探究を結びつける授業及び教科横断や社会課題を関係づけた授業づくりが模索されています。その背景として社会の事象と各教科の事象を結びつける「ものの見方・考え方」の重要性が認識されています。ただし、それが教師の暗黙知に留まっている可能性があり、多くの生徒に共有されていないかもしれません。そこで、この暗黙知を言語化・可視化することにより多くの生徒に共有できる機会を見出したいと考えています。

また、「ものの見方や考え方」は普遍的なものというよりは個別性が高いため、自問自答や対話を通じて個々が見出す必要があると考えています。しかし授業内で全員が対話を通じて発見するのは時間的に困難です。その解決策の一つとして、当研究会は生成 AI を対話者とし、プロンプト開発を通じて生徒が自らの視点を見出し共有する授業をデザインする取り組みを進めています。

今後ますます生成 AI の教育における活用は注目されます。私たちも、独自に生徒が教科を断片的に学ぶのではなく、相違点と共通点を見極め、自分なりに融合する「ものの見方・考え方」の視点を見出すべく、教師・生徒・生成 AI による対話を通じた実験的取り組みを進めています。これもまた生徒の学びの軸づくりの挑戦の 1 つだと仮説を立てています。

ぜひワークショップを通じ、いっしょにこの可能性を考えていければと期待しています。

■ 日 時 令和7年9月25日（木） 18:00～20:30（受付17:30～）

■ 会 場 アルカディア市ヶ谷（私学会館）

## ■ プログラム

- ① フュージョン教育の数学の授業の事例報告（数学の問題を解くではありません）と WS
- ② フュージョン教育の IBL（Inquiry based Learning）の事例報告と WS
- ③ リフレクション 小論文などの生成 AI による評価をきっかけに

## ■ 講師・ファシリテーターは研究会メンバーで進行（支部・学校名など）

本橋真紀子（⑤聖学院中学校高等学校 数学科教諭）

田中 歩（⑪工学院大学附属中学校高等学校 教頭・英語科教諭）

山口 貴史（⑪駒沢学園女子中学校・高等学校 数学科教諭）

## ■ 定員 20名（申し込み順 ⇒ 定員になり次第締め切ります）

生成 AI を使って授業づくりをしたり、生徒の考える視点を発掘することに関心のある先生方を主な対象としております。  
本研修会は、生成 AI そのものの研修ではなく、生成 AI の仕組みや発展的な技術については触れません。

## ■ 参加費 無 料（当協会会員各校の拠出金と(公財)東京都私学財団からの補助金で運営しております）

### ★ ご参加にあたって

当日、生成 AI を利用するためのデバイス（できるだけキーボード付きのもの）をご持参ください。会場内では無線 LAN をご使用いただけます。

### ★ 申込方法 9月19日（金）までに東京私学教育研究所HPよりお申込みください。

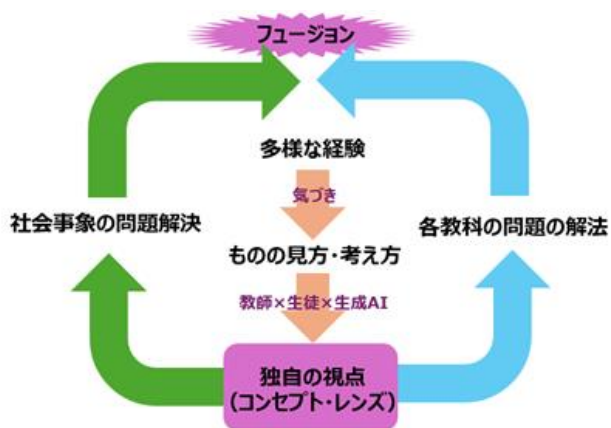
URL <https://k.tokyoshigaku.com>



東京私学教育研究所 フュージョン教育研究会  
担当：松田・本間 TEL 03（3263）0544

## フュージョン教育研究会とは？

当研究所は、新たに所長の諮問機関のような役割を果たす「フュージョン教育研究会」を設置しました。2028年に小学校から順次公示される次期学習指導要領に先立ち、2025年度から2027年度までの3年間限定の研究会です。同研究会は、柔軟なカリキュラムマネジメントをするために多様な教育活動のフュージョンの可能性を追究することを目的にします。そのために、まず、生徒自身が教科どうしや教科と探究などを結びつける視点を見つける新たな「フュージョン教育」の考え方及び価値をリサーチすることから始め、来るべき日本の困難な局面に対応していきます。



天候の悪化や各種災害、それに伴う公共交通機関の対応などにより、実施方法（オンライン研修を含む）プログラムの変更や中止（延期）となる場合があります。その際には web 申込時にご入力いただいたメールアドレスへ迅速にご案内させていただきます。